

1 NTT データのグローバル技術戦略

Global No.1 をめざす技術戦略の全体像

NTT データは新中期経営計画にて IT サービサーとしてグローバルトップ 5 入りをめざしている。技術革新統括本部では、グローバルで技術戦略を統一しアセットベースビジネスの推進を加速させ、かつ先進技術活用力とシステム開発技術力の強化に取り組み、Global No.1 の技術力獲得をめざしていく。

新中期経営計画での注力ポイント

2022 年度～ 2025 年度にかけて策定している新中期経営計画では、Global 3rd Stage の到達に向けて、IT サービサーとしてグローバルトップ 5 入りをめざして取り組んでいる。お客様事業の成長を支え、お客様とともにサステナブルな社会を実現していくために、これまで培ってきた顧客理解と高度な技術でシステムをつくる力と、様々な企業システムや業界インフラを支え人と企業・社会をつなぐ力のさらなる向上を目的に戦略を定めている。技術革新統括本部では、新中期経営計画の戦略の中でも「アセットベースのビジネスモデルへの進化」と「先進技術活用力とシステム開発技術力の強化」に注力していく。

NTT データのビジネスモデルの転換 ～従来型 SI からアセットベース SI へ

NTT データは従来、お客様からの要求を受けて、それを丁寧に開発するスタイルの SI を生業にしてきた。RFP を受けた営業活動を実施し、開発は個別顧客、プロジェクトそれぞれで行われ、オーダーメイドの一

点ものを開発する。新中期経営計画では、この従来型 SI の業態から、アセットベース SI へシフトする方針を打ち出している。

なぜアセットベースビジネスモデルへのシフトが必要か、理由は 2 つある。

1 つ目は人材不足への対応だ。今後特に日本では労働人口が減少していく中、世界的にも IT 人材の獲得競争が過熱している。個別顧客、一点ものの開発は、プロジェクトごとに大量の人材を抱える必要がある。従来型 SI の業態のまま売り上げを拡大するためには、大量の人材を抱えるプロジェクトを数多く実施する必要があるが、昨今の人材獲得競争の中では現実的ではない。そこで、個別開発ではなく、作らない開発の実現が重要になってくる。グローバルレベルで当社グループ内の技術・知見・経験等をアセット化し、それらをマルチリージョン、マルチインダストリーで有効活用する姿をめざす。

2 つ目は、お客様の要望に素早く応えるためである。デジタル技術の活用で、お客様のビジネススピードがどんどん加速している。従来型 SI で開発しお客様へ納めるスピード感では、お客様の要望に応えられない。アセットを活用して自ら提案・



株式会社 NTT データ
技術革新統括本部
執行役員 技術革新統括本部長
富安 寛氏

発信するビジネスモデルへと変革し、デジタル時代にふさわしいビジネスアジリティを備え、お客様への提供価値を最大化していく。

技術戦略を統一してアセットベースビジネスの推進を加速

アセットとは何か、それは、業界・業務のフォーサイト、ベストプラクティス、ソフトウェア、自社ツール等再利用可能なものと定義している。技術革新統括本部では、なかでもグローバル共通のテクノロジーアセットの創出を担う。グローバルで技術注力領域を定め、各領域で業界に依存しないテクノロジーアセットを開発する。それらを NTT データグループ社員が利用できるアセットリポジトリで、お客様への提供価値を再利用可能な状態で集約する。

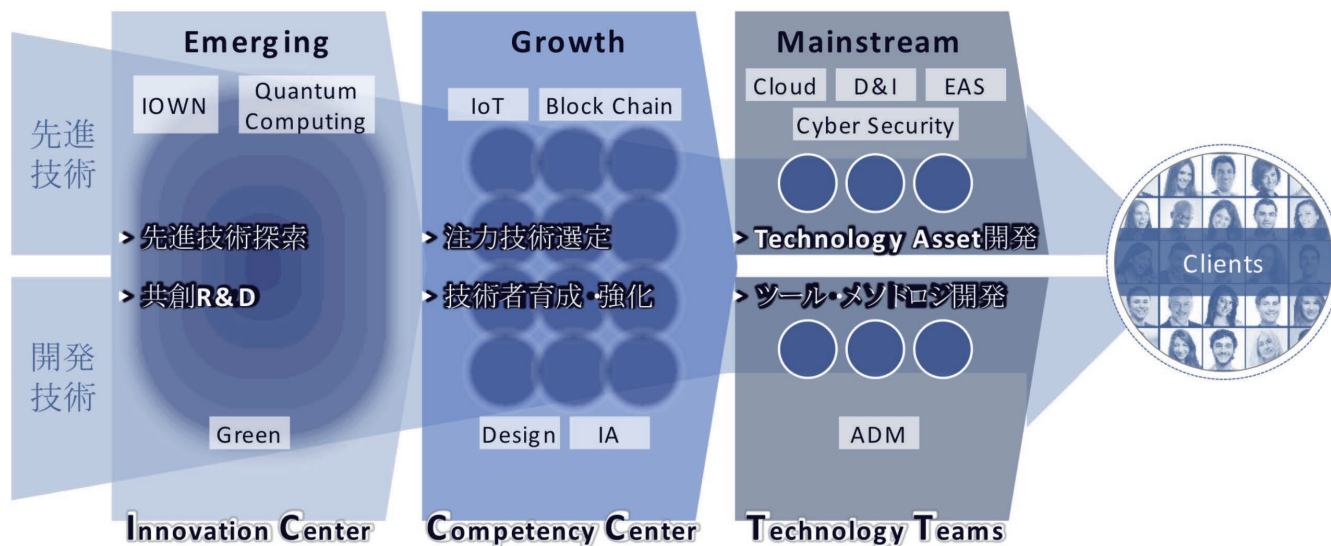


図1 先進技術活用力とシステム開発技術力の強化

各領域での「売上規模拡大」、「技術者数増加」、「パートナーアライアンス強化によるエコシステムの実現」により、Global No.1の技術力の獲得をめざす。その技術力を活用して、アセットベースビジネスへの変革を加速させていく。

先進技術活用力とシステム開発技術力の強化

現在のビジネスの中心となっている技術のアセット化にとどまらず、将来の競争力獲得に向けた先進技術活用力の強化と、生産性の向上に向けたシステム開発技術力の強化を両輪で進めていく。

先進技術活用力とシステム開発技術力の強化は、技術の成熟度に応じたフェーズごとに技術獲得をめざす、EGMフレームワークにて研究開発・技術開発活動を再構成している。

・Emergingフェーズ

5～10年後を想定した先進技術探索と顧客ともに新技術によるビジ

ネス価値創出を検討する共創R&Dを行う

・Growthフェーズ

3～5年後の成長事業、技術注力領域を形成するための技術開発、テクノロジーアセットの創出とビジネス検証に加えて技術者育成を行う

・Mainstreamフェーズ

現行事業向けに、技術注力領域でテクノロジーアセットを開発し、日米欧の3極での事業展開、デリバリーリソースの拡大、市場シェア拡大の推進を行う

すでに市場で活用されているMainstreamフェーズの技術の技術力向上、アセット化によるビジネスアジリティの向上に加え、将来活用が期待されるGrowthフェーズの技術、Emergingフェーズの技術も技術探索や顧客とのビジネス仮説検証、技術者育成などを行い、グローバルでの競争力強化を図っていく。

従来型SIの強化と改革

従来型SI開発向けの技術支援の取り組みも、従前の取り組みを効率化しながら継続して実施する。人材獲得が激化していく中での開発人材の継続的な獲得のために、グループ会社やビジネスパートナー各社の人材をプールし、教育・育成して、プロジェクトに必要な開発人材の安定提供を実現する。

また開發生産性向上の取り組みを高度化し、さらなる高生産性を実現する。Low Code Platformを軸としたアプリケーション開発変革やウォーターフォール開發生産性向上、ソブリンクラウド等クラウド基盤技術の開発などを活用して、従来型SIの改革も進めていく。